

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成22年1月14日(2010.1.14)

【公開番号】特開2007-154192(P2007-154192A)

【公開日】平成19年6月21日(2007.6.21)

【年通号数】公開・登録公報2007-023

【出願番号】特願2006-318073(P2006-318073)

【国際特許分類】

C 0 9 D 11/00 (2006.01)

B 4 1 M 5/00 (2006.01)

B 4 1 J 2/01 (2006.01)

【F I】

C 0 9 D	11/00	
B 4 1 M	5/00	E
B 4 1 M	5/00	A
B 4 1 J	3/04	1 0 1 Y

【手続補正書】

【提出日】平成21年11月24日(2009.11.24)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

(a) 着色剤と、

(b) 相変化インキキャリヤと、

を含む相変化インキであって、

前記キャリヤは、

(i) 分枝トリアミドと、

(ii) 約350から約730の平均ピーク分子量と約1,000から約1,500の多分散性を持つポリエチレンワックスと、

を含むことを特徴とする相変化インキ。

【請求項2】

請求項1に記載のインキであって、

前記ポリエチレンワックスは約470から約600の平均ピーク分子量を有することを特徴とするインキ。

【請求項3】

(1) 相変化インキをインキジェット印刷装置に組み込む工程と、

(2) 前記インキを溶融する工程と、

(3) 被印刷体上に画像の形に射出するための前記溶融インキの液滴を生じる工程と、  
を含む方法であって、

前記相変化インキは、

(a) 着色剤と、

(b) 相変化インキキャリヤと、

を含み、

前記キャリヤは、

(i) 分枝トリアミドと、

(ii) 約 350 から約 730 の平均ピーク分子量と約 1.0001 から約 1.500 の多分散性を持つポリエチレンワックスと、  
を含むことを特徴とする方法。

【請求項 4】

請求項 3 に記載の方法であって、  
前記被印刷体は中間転写部材であり、前記溶融インキの液滴を前記中間転写部材上に画像の形に射出し、続いて前記画像形を前記中間転写部材から最終記録用シートへ転写することを特徴とする方法。